

議事概要

会議の名称	令和元年度第5回三田市子ども審議会
開催の日時	令和元年10月21日（月）14時～15時30分
開催の場所	市役所南分館6階601会議室
出席した委員の氏名	名須川知子会長、中西利恵副会長、永井和浩委員、野田奈々委員、鈴木直子委員 中島啓子委員、川田長嗣委員、西さゆり委員、平岡浩二委員、大島一晃委員 横山博人委員、小石川あゆみ委員、森脇明美委員、鳥山義文委員
出席した職員の職及び氏名	〈事務局〉 高見智也子ども・未来部長、奥毅吾子ども未来室長、脇田実夫子育て応援室長 外岡明文学校教育部次長、横溝裕香子ども政策課長、寛長雅博健やか育成課長 田谷芳央子ども家庭課長、長澤忠宏保育振興課長、後田哲也幼児教育振興課長 多田安希健康増進課長、浅野晋司教育総務課長、山本直也学校教育課長 村岡智行教育研修所長、久後紀子幼児教育振興課参事、井上尚博健やか育成課副課長 西中いづみ健康増進課副課長、山岡久哲子ども政策課係長、靱井清陽保育振興課係長 岡信子子ども政策課職員
傍聴人の人数	0名
議題	(1) 第2期三田市子ども・子育て支援事業計画（案）について【資料1】 (2) 第2期計画策定にかかる答申（案）について【資料2】
会議の概要	審議事項について、委員会の意見あり（議事概要参照）
公開・非公開の区分	公開
使用した資料	【資料1】第2期三田市子ども・子育て支援事業計画（案） 【資料2】答申書（案）
連絡先	子ども・未来部 子ども未来室 子ども政策課 電話（079）559－5079

## 会議経過

### 1. 開会

### 2. 会議の成立

【委員出席14名 過半数以上の出席があり会議成立】

【傍聴者0名】

### 3. 議題

#### (1) 第2期三田市子ども・子育て支援事業計画（案）について

会 長：計画案についてこれまでみなさんに積極的な意見をいただけてきましたが、審議は今回が最後となります。それでは議題1について事務局より説明をお願いします。

#### (1) について、事務局説明

会 長：それでは今の説明について意見があればお願いします。これまでの議論をかなり反映していただいていると思いますが、いかがでしょうか。

委 員：何もわからないまま参加していましたが、現場サイドとの連携の問題などの話をお聞きし、保護者の立場で参加させていただいていますが、そういうこともあるのかと思えて、参加できてよかったと思います。保護者の立場から小さなことでも言えるのは大事だと思っています。幼稚園に戻って、保護者の声を園長に伝えるだけでも良い関係が作れるのかと思います。子どもが大きくなる中でその環境をよくするためにこれだけの人が考えて動いてくださっていることが実感できたので、保護者として、子どもにも伝えていきたいと思いました。

委 員：素晴らしい計画ができて、よかったと思います。私も参加する中で意見も言わせていただきましたが、これだけ細かく計画を立てて、これが実践されていくことが一番の願いです。そのためには広い視野で現場のいろんな声を聞き取る力を市の方も担当の方も聞く耳を持っていただき、各担当間の連携を図りながらこれに向かってよい子育て支援ができるような環境作りに繋がればと願っています。

委 員：それほどたくさん意見を言えませんでした。19ページに家庭での子育てを基本にしながらということをつけ加えていただきましたが、私は、子育てはやはり家庭でやっていくものだと思います。家庭での子育ての力がなくなっているから、地域やいろんな

ところが関わって子育てを応援しなければならないのだと思っています。いろんな事業を市役所のいろんな部局が関わりながら、子どもや家庭を応援してこれだけの事業ができています。私のいる地域でも応援していかなければと思います。私のところは子どもが少なくなっていて、本来なら子ども同士で育って、いい環境の中で育つのが理想だと思うので、そんな環境をつくれればよいと思います。

委員：途中からの参加になり、色々と意見を言ってきましたが、自分自身が実践し、出会った子どもや保護者の背景をみてきて、この子どもたちがこの言葉をどう理解し、どう伝わるかという立場で見ってきました。その中でいろいろ気になるところを指摘できればと思っていました。今回の資料を見て、事務局等にコメントをお送りしていますが、この場で3点だけ申し上げたいです。19ページで子どもの権利について丁寧に書いていただいたのはよいと思います。その中で「権利が尊重され」という文言については、多くの自治体の条例などでは「権利の保障」と表現されています。尊重では「大切によね」に終わってしまうので、きちんと保障するという意識を持っていただきたいです。25ページに関連して、子どもの声を聴くことについて、具体的な施策や、検討したいということでもよいと思いますが、そういう姿勢がはっきり見えないと感じたので、どのように子どもの声を聴く場を最終的に出そうとしているか改めてお聞きしたいです。最後に評価指標については、これで本当に良いのかと思うところがいくつかあります。この会議の後にこの通りで決定して進んでいくのか、確認させていただきたいです。

委員：子どものことを中心に話し合っ、いい計画ができたと思います。昨日私はこうみん未来塾に参加しましたが、人体の話だったので低学年の子どもには難しかったのですが、先生も工夫してわかりやすく、子どもも面白かったと言っていました。この計画には入っていませんが、いまPTAと学校が協働で性教育のこともやっており、性教育がないと望まない妊娠や貧困につながることもあると思うので、性教育の目標数値なども出していただければと思いました。

委員：毎回いろんな議論の結果、限られた予算や人員の中で事務局も大変よくやっていただいていると感じました。いろんな数値目標も掲げられていますが、新たな子育て支援アプリの活用など、今後も利用者の声を吸い上げながら、行政にはこういうサービスがあるということをうまく広報していただければ目標も達成できると思うので、よろしく願いしたいです。

委員：子どもの人数が減っているの、保育の需要も減るのかということもありますが、これからは三田市にもどんどん人が入ってきて増えてほしいと思います。情報を得るのは広報紙「伸びゆく三田」以外にどういうものがあるのでしょうか。他にもいろいろあるの

でしょうが、私たちにはなかなかわかりません。広報紙にはいろいろ載っていますが言葉自体がわからないことがときどきあります。子育て中の保護者が全て把握できるよう広報の在り方を工夫されると良いと思います。

委員：行政として無い袖は振れないので、地域の企業と連携するなど、子育て中の家計の負担がおさえられるような割引制度などを取り入れていけば、行政だけでやれないこともできるのではと思います。また、保育人材を確保するというのが一番の問題で、働く側の環境を良くして魅力ある職場になれば、おのずと人材は集まってくると思います。そういう発信もやってもらえるとありがたいと思っています。子どもが少なくなり、小中学校のときには自分の子どもが参加できていたクラブ活動が今はかなり厳しくなっていて、同じ三田に住む子どもが同じ行政の下で同じサービスを受けられるのが公平だと思います。難しいと思いますが学校再編のことも含めて考えていかなければならないと思います。

委員：たくさんの施策があって、子どものために達成できればと思っています。以前「トライやるウィーク」の受入をしたことがあります。企業の熱量として、これだけは伝えたいとか、何かを気づくきっかけになればということ由市と学校と企業のトライアングルから来ている言葉だと思うので、市主導や企業主導でいろんなアイデアを出せると良いと思います。「子どもの夢と未来が輝くまち さんだ」という将来像に向けて何かお手伝いできればと思います。

委員：私立の幼稚園については10園が認定こども園になり、幼児教育を担う、地域の子育て支援も担うということで、市と連携してやっていきたいです。計画として家庭教育の重要性と地域の重要性もおさえていただいて、大事なことが書かれていてよかったと思っています。統計的には保育需要が伸びてきて、長時間保育が必要になっています。そういう社会への変化は当然のことですが、やはり家庭の教育は大事だと思っています。施設もいろいろ取り組みますが、特に幼児の教育は家庭との車の両輪でどちらが欠けてもうまくいかないと思うので、そういう子育てをする家庭を支援するという視点でこの計画ができていることについて非常に良かったと思っています。

委員：いつも自分の立場から気づいたことを伝えてきましたが、最大限反映していただいて感激しています。せっかく素晴らしい計画ができたので、取組のPRだけでなくこういった考え方のPRや周知を施設や現場、市民にきちんと伝えていくことで、ここまで頑張っているということをみんながわかった上で取組を進められれば良いと思います。私も一市民、一保護者として協力できればと思うので、引き続きよろしくお願いします。

委員：子どもが小学校高学年になってからの会議への参加でしたので、最初はわからないことがあったり、小さい子どもの家ではこういうことに困っているのかとわかったりしました。今回の資料の中で「家庭での子育てを基本」ということがあり、やはりそうなのだと思います。子どもは家庭で両親と過ごすのが一番なのだろうと思いながら自分の子育てをしていましたが、病気になったときに仕事を休んで家で子どもを見られない家庭もあり、なぜ働かなければならないかという様々な理由もあるでしょうが、保護者のステイタスを下げられないからだとする、子どものために働いているのではないのではないかとか、自分なりに考えたりもしました。「家庭での子育てを基本」という文言を見て、三田市や地域の人と一緒に子育てをしなければならないと思いますが、一番は親が自分の子育てを見直さなければならないのではないかと考えています。子どもの権利が尊重ではなく保障されることは非常に大事だと思います。中学校区ではバスのダイヤ改正で通学が困難になっていますが、権利を守るということは、大人は脅かされていることを発信できますが、子どもはできないので、大人がしっかりと子どもの権利を守っていかねばと思います。日本の経済が豊かになれば解決することもたくさんあると思いますが、自分たちがどれだけ贅沢をしているかを見直さなければならないとも思います。働く権利などいろんな権利があると思いますが、すべてやりたいことができるということではなく、それを選ぶということが大事ではないかと思います。その時に誰が一番子どもを犠牲にしているのかということを考えなければならないと、2年間の会議の中で思いました。

委員：子どもの権利については権利条約が「保障すべき権利」と定めているので「保障」としていただければと思います。計画としてどこまで具体的に記載するかについてはある程度制限があると思いますが、その中でどういう文言を使うのか、どこを優先させるのかは難しいと思います。また、職場側の視点での意識や協力は、いくらワークライフバランスと言ってもどうしても行政の指導のようなものがないとなかなか改善しません。行政も言いにくいと思いますが、そういう部分が盛り込めるのかどうかは課題だと思います。また、指標の部分ですが、どうしても指標は数値で一目瞭然になるので、進捗状況などは数値で図るということになってくると思いますが、計画全体の成果のアウトカムをみようと思えば、市民や利用者の満足度のような部分になると思います。その場合改めてアンケート調査等が必要になるという問題もあります。指標は、目安としてのものであり、すべて上がったから100%の成果ではないという意識が必要だと思うので、そういう記載がどこかに入ればと思います。また、この計画を庁内で情報共有を図り、各関連部署が当事者意識をもって、取り組むことが重要です。

会長：それぞれの立場で貴重な意見をいただいたと思います。A3版の計画のめざす姿などについても、広報紙に載せていただければと思います。数値目標などはなかなか難しいと

ころもあるかもしれませんが、市長のリーダーシップのもと取り組みを進めていることを共有するのは非常に大事なことで、行政にやっってくださいと言うだけではなく、三田に住むみんなが子どもにとってどうか、私たちに出来ることは何なのかということについて意識を高めていくことも必要だと思います。スローガンのような感じでいいものができたと思いますし、やはり指標があることが必要だと思います。指標がなければ文章はいかようにも解釈できてしまうので、着地点がどうにでもなります。数字は達成できなければそれがなぜかを考えるという意味でも、きちんと数字が出たのはよかったと思います。うまくいっているところはそれを持続すると良いと思います。重点施策については、虐待の早期発見や休日医療、ネウボラ、産後うつをサポートなど非常に重要で、施策内容的には三田市は皆の意見を聞きながらかなり緻密に作っていると、他の市を知っている立場からは思えます。情報共有が大事ですので、今後地域で話をしていくことなどできればと思います。最後に子育て支援の考え方からすると、私も子育て支援ルームをやっていますが、子どもにとっては両親が一番でありその肩代わりはできません。子どもが小さければ小さいほどそうですが、働くという自己実現で輝いている両親だからこそ子育てもうまくいくということもあるだろうし、それをサポートするのが子育て支援機関だと思います。保護者も子どもべったりでもよくないと思いますし、保護者も客観的に、子育て同士の繋がりや職場での関係などトータルで子育てをしていかねばなりません。孤立した子育てをさせない、一人になっている母親がいれば必ず声をかける、そのうち母親も心を開いて色々な人と関われる、そうして育休が終われば子どももしっかりするので、心置きなく職場に行けるという感じで繋がっていくことは大事だと思います。0歳のつかまり立ちの子どもの立場で言うなら、見えるところにいてほしいということだと思います。育休は丸一年取ってほしいと思っています。私は0歳児保育にあまり賛成していません。我が国はお金をかけてそれをやっていますが、スウェーデンなどは1歳からです。1年間は丸々両親保険といって、仕事をしている時と同じような収入を得ながら母親も父親も育児に関われます。幼児教育の理念から言えば理想です。我が国の子育て支援事業は非常に貧しいですが、それでもこうやって子ども・子育て支援事業が始まり第2期を迎えました。市民と話し合えるのは大きな一歩なので、足りない、足りないというだけでなく、できることを前向きに考えられると良いと思います。皆さんのご意見もいただいて私もよかったと思います。質問への回答をいただければと思います。事務局はいかがですか。

事務局：委員の質問について、19ページの子どもの権利の尊重ではなく保障については、その通り改めます。25ページの子どもの声を聴く場という観点については、子どもが自分の意見、気持ちや考え方を大事にしていくという点で、課題解決の方向性の中に子どもの主体性を大事にすることを加筆します。指標についてはご意見をいろいろいただいておりますが、本日は審議会資料として出していますが、これはどうかという点があれば、他の

委員の皆様のご意見も聞いて、答申に向けて会長・副会長と調整したいと思います。すべては取り上げられないと思いますが、これはというものがあればご提案いただければと思います。

事務局：保育士の人材確保については、36ページに仕事と家庭の両立の中で、2、3号認定の推移については子どもの数は減るものの、認定者数は低年齢を中心に増加する見込みです。保育士確保については、待機児童対策と保育士の確保は両輪だと考えています。特段のことは計画には書いていませんが、37ページにも前段に記載している通り人材確保が不可欠となっており、各園と合同で就職フェアや保育士の宿舍の借り上げ等の補助事業を行っており、全国的に保育士が不足している中、各園からご意見をいただきながら確保に力を入れていきたいと考えています。

事務局：性教育と「トライやるウィーク」については教育委員会からお答えします。性教育については、学校ですでに保健体育の授業の中で教育課程に基づいて取り組みを進めています。今後、各家庭、地域、PTAも踏まえてとなると、それぞれの主体性の問題もありますが、啓発や情報提供は可能かと考えています。トライやるウィークについては、もっと企業の理解をいただいたうえでアイデアを生かすような取組をとということだと思います。即答はできませんが、表現を工夫できるのであれば、24ページの表現を検討したいと考えています。

事務局：成果指標についてはいろいろな意見をいただきました。内部でもかなり苦心したところで、第1期計画はおおまかに基準値より上げる、下げる方向だけでしたが、今回は具体的な数値で示すこととしました。子どもが減る中で現実からかけ離れた目標になることも問題であることから、現実的な数字にしています。調整もいたしますが、今後パブリックコメントや議会での議論を踏まえての計画になります。いったんは答申の形でいただくことになるので、できればこの場で、こういう数字が良いというご意見をいただければと思います。

会 長：それでは指標について気になる点があればご意見をいただきたいです。

委 員：疑問ですが、障害のある子どもへのサポートファイルの配付件数の目標が空欄なのはなぜですか。連携強化するなら増加するではないでしょうか。

事務局：教育委員会と検討した結果、現段階では指標として掲載するということまで調整しましたが、今後増加させる方向で数字を設定したいと考えています。

会 長：そのほかいかがですか。

委 員：一つの指標ですべてを語るのは、指摘があったように難しいと思います。障害のことについても、いくつかの項目があり、一つの指標で説明はできないのでいくつか出してもよいと思いますし、ある面ではうまくいったし、他の面ではいかなかったといった議論の素材として出していくのが良いと思います。かかりつけ医を持つ割合などは、そのままよいと思いますが、コミュニティ・スクール実施校などは、それでどうなったのかということをお大事にしないなら、子どもや保護者がどう感じたかになるべく近い指標にする必要があると思います。小学校の評議員をやっていますが、教員向け、保護者向け、子ども向けのアンケートを毎年やっており、経年でほぼ同じ質問のアンケートで比較できるようになっています。同じ質問を他の小学校でやっているなら、そこから子どもや保護者の声を拾うこともできると思います。市民意識調査についても必要に応じて入れられる項目などがあるかと思います。なるべく現場の人、子どもたち本人の声が届くようにしてもらえればと思います。指標について、本人の満足度などを出すなら、どの調査結果からのデータなのかという出典は記載すべきだと思います。それがないとどのデータかわからないのでよろしくをお願いします。

会 長：ご要望ということでお聞きしました。事務局から何かありますか。評価は難しいもので、一つの指標であり、全部がわかるものではない、数字で出せるものは出すというものです。私も大学の評価をやっていましたが、自己評価のために数字がある、他者からの評価はアンケートがあります。一番大事なのはそれによってどうだったか、「やった」ではなく、「やってどうだった」という最終的な成果を把握しなければならないので、これは一部に過ぎないということは事務局も認識していると思います。ただ、これがなければ曖昧になると思いますし、ある方がよいです。もしもこの数字や、やり方で気になることがあれば今のうちに言ってほしいということになると思います。よいでしょうか。学校評価は義務化されておりやり方も様々ですが、聞くチャンスではあると思います。そのあたりは市民の声を聴きながら、ということになります。大きいものは5～6年ごとの意識調査でも、次のアンケートづくりにも関係してくると思います。事務局もよいでしょうか。

事務局：コミュニティ・スクールについては地域の協力・支援や学習環境の活用を考える上で、何を発信するかを考えなければならないと思います。学校評価についての意見もあったので、アンケート項目を各校で比較することや、中学校区では質問内容をそろえるところも出ているので、小中の連携を進めながら働きかけをしていきたいと思っています。

会 長：委員の皆さん、他にどうでしょうか。それでは、本日の議論を踏まえてこの内容で進め



ていくということでもよろしいですか。文言修正等はいくつかあると思いますが、委員長・副委員長に一任いただくということでもよいですか。

異議なし

(2) 第2期計画策定にかかる答申(案)について

会 長： それでは次の議題に移ります。答申案について事務局より説明をお願いします。

(2) について、事務局説明

会 長： こういう形で来週答申することになります。今の説明について質問・意見はありませんか。それでは答申についてはこのように進めます。5年間着実に施策を進めてほしいというところをアピールしたいと思っています。それでは進行を事務局に返します。

事務局： 委員の皆様には長時間活発な議論をありがとうございました。基本計画についての議論はこれで最後となり、来週答申をいただきたいと考えています。最後にお礼の意味も込めて、子ども・未来部長よりご挨拶いたします。

部 長： 本日もそれぞれの立場から貴重なご意見をいただきました。子どもを中心に据えた議論をしていただいたことに改めてうれしく思うとともに、我々自身が常に子どもを中心において、子どもに関心を寄せながら、子どもの声を聴きその未来が明るくなるように取り組んでいく必要があるということで、改めて子どもにかかわる行政の責任は大きいと思っています。今を生きる子どもに対する大人の責任を改めて強く感じた審議会でした。計画ができると皆さんが言われますが、作ってからが大切だと思っています。今日いただいたご意見を踏まえながら、より実効性のある、本当に子どもにとって豊かな三田市の未来があるよう、皆さんとともに取り組んでいきたいです。このご縁を大切に、これからも三田市の子どもに関心を寄せて関わってくださるようお願いいたします。どうもありがとうございました。